

|         |  |
|---------|--|
| 氏名      | 内 田 健 介  |
| 授与した学位  | 博 士  |
| 専攻分野の名称 | 医 学  |
| 学位授与番号  | 博乙第           号  |
| 学位授与の日付 | 平成16年3月25日   |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者<br>(学位規則第4条第2項該当)   |
| 学位論文題目  | Radiological follow-up study of the rheumatoid wrists after radio-lunate limited arthrodesis with ulnar head resection<br>(橈骨-月状骨間部分固定術および尺骨頭切除を行った関節リウマチ手関節のX線学的検討) |
| 論文審査委員  | 教授 村上 宅郎 教授 平木 祥夫 教授 光嶋 勲  |

#### 学位論文内容の要旨

橈骨-月状骨間部分固定術(RLA)は関節リウマチ(RA)により破壊された手関節に対する手術法であるが RA 治療上その本邦での位置付けはなお明らかでない。RLA の目的は関節の骨性強直を遅らせることで関節の可動域(ROM)および日常生活機能を維持することである。本研究では尺骨頭切除(UHR)を併用した RLA の成績について疼痛、関節可動域(ROM)、および carpal height ratio, ulnar translation ratio, palmar subluxation などの X 線学的 parameter につき検討した。

また、これらの clinical factor の変化と術前の X 線写真における Simmen, Huber らの Schulthess 分類: Type I (ankylosis type), Type II (osteoarthritis type), Type III (disintegration type)との関連性についても統計学的に検討した。

術前のステロイド使用量や C 反応性蛋白(CRP)、血沈値(ESR)、リウマチ因子(RF)などの生化学的検査値は手術結果に影響を及ぼさなかった。

今回の結果から UHR を併用した RLA は Schulthess 分類の全ての Type の関節に対して有効な治療法であり、とりわけ Type II 関節がもっとも良い適応と考えられた。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、尺骨頭切除 (UHR)を併用した橈骨-月状骨間部分固定術 (RLA)の成績について、疼痛、関節可動域(ROM)、および carpal height ratio, ulnar translation ratio, palmar subluxation などの X 線学的 parameter について検討したものであり、またこれらの clinical factor の変化と術前の X 線写真における Schulthess 分類 (Type I (ankylosis type), Type II (osteoarthritis type), Type III (disintegration type))との関連性についても統計学的に検討したものである。

この研究の結果、UHR を併用した RLA は Schulthess 分類の全ての Type の関節に対して有効な治療法であり、とりわけ Type II 関節がもっとも良い適応と考えられた。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。